



The 46th Ship for Southeast Asian and Japanese Youth Program



Future

世界を見た。自分を知った。私たちの創る未来が見えた。

令和元年度内閣府青年国際交流事業

第46回「東南アジア青年の船」事業報告会

日時：2月23日（日）13:00～16:30

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
カルチャー棟 小ホール

主催：内閣府

（一財）青少年国際交流推進センター
日本青年国際交流機構（IYEO）

日本参加青年公式アカウント



@sseayp-japan



Future 世界を見た。自分を知った。私たちの創る未来が見えた。

日本代表としてASEAN加盟国10カ国の青年と過ごした51日間。
国境のない船上から世界を見つめ、自身と向き合ったその先には、
それぞれの未来へとつながるストーリーがあります。

はじめに

ご挨拶	1
事業概要	2

日本国内活動

地方プログラム	4
東京プログラム	5

船内活動

活動日程	7
ディスカッション活動.....	8
ソリダリティー・グループ活動	10
PY セミナー	11
ナショナル・プレゼンテーション.....	12
自主活動	13
船内での生活	14

訪問国活動

歓迎レセプション	17
課題別視察.....	18
ホームステイ	19

参加にあたって

応募→乗船→事後活動の流れ	21
日本参加青年の声	22

報告会 プログラム

プログラム・会場フロアマップ	24
パネルディスカッション	25

ご挨拶

ご来場の皆様、本日は第46回「東南アジア青年の船」事業報告会へお越しくださいありがとうございます。私たちの報告会のテーマは『Future 世界を見た。自分を知った。私たちの創る未来が見えた。』です。

民族や宗教などの多様性に富むASEAN加盟国10カ国の青年と過ごした51日間は感情が揺さぶられるような発見や新たな学びの連続でした。私たちは日々新たなことに挑戦し、Familyとして互いに高め合いました。個性豊かな青年との交流を通して私たちは世界の広さを肌で感じ、互いの持つ強い信念や行動力を知り、自分自身の可能性を信じるようになりました。そして“未来”のリーダーとして、私たち自身が“未来”を変えていく、“未来”を創っていくという決意を新たにしました。

この報告会では、私たち第46回日本参加青年が本事業でどのような世界を見てどのような経験をし、どのような“未来”を思い描いているのかをお伝えできればと思います。下船後約2ヶ月、参加青年一同皆様とお会いできることを楽しみに準備を進めて参りました。ご来場くださった皆様には本事業の魅力とともに私たちの成長、私たちの“未来”を感じていただければ幸いです。最後になりますが、第46回「東南アジア青年の船」事業に携わってくださった全ての方々に心より感謝を申し上げます。

粕谷遥

事業報告会実行委員長



本日は、第46回「東南アジア青年の船」事業報告会にご来場いただき、誠にありがとうございます。

昨年8月の事前研修、10-12月の51日間のプログラムを終え、46年に渡る本事業の新たな1ページを創りあげて帰ってまいりました。その1ページには多くの笑顔があり、涙があり、つまずきがあり、そして学びが詰まっています。

日本とASEAN加盟国10カ国からの317名の青年との出会いや、各国ホストファミリーとの交流を通して、生活習慣・文化の違いの先に彼らが見出したのは、「違い」よりもむしろ「同じである」ということでした。ディスカッションや自主活動等のなかで、ASEAN加盟国からの青年と意気投合したかと思えば、逆に日本参加青年同士で意見が違ったりする場面も見られました。そこにあったのは、それぞれの国を理解する「国際理解」を超えた、一人の人を理解する「人間理解」であったように思います。また、様々なバックグラウンドを持つ人々との関わりから、リーダーシップとは何かということを考え、日本人として、国際人として、当事者意識を持ってこれからの世界を考えていく基盤が生まれたように感じています。

この事業から得たもの、そして日本参加青年がどのように成長し、この経験をどう次へとつなげていくのか。『Future 世界を見た。自分を知った。私たちの創る未来が見えた。』というテーマに込め、事業の経験と自分自身と向き合ってきた成果をご報告させていただきます。

最後に、本事業を支えてくださった全ての方々に心より感謝申し上げます。

貞包みどり

ナショナル・リーダー



事業概要

経緯・目的

「東南アジア青年の船」事業は、昭和49年に、日本とASEAN（東南アジア諸国連合）加盟国の間の共同事業として発足し、その後、毎年実施され、今年で46回目を迎える。

この事業には、現在、ASEAN10ヵ国と日本が参加しており、船内及び訪問国において各種の交流活動を行うことにより、日本及び東南アジア諸国の青年相互の友好と理解の促進、青年の国際的視野の拡大、国際協調精神の醸成及び国際協力における実践力の向上を図り、もって国際化の進展する社会の各分野で指導性を発揮することができる青年を育成するとともに、青少年健全育成活動に参加青年が寄与すること等を目的としている。

事業内容

船内活動：ディスカッション活動、各国紹介（ナショナル・プレゼンテーション）、グループ活動など

訪問国活動：表敬訪問、ホームステイ、施設見学、訪問国青年との交流活動など

参加国

ブルネイ・ダルサラーム国、カンボジア王国、インドネシア共和国、ラオス人民民主共和国、マレーシア、ミャンマー連邦共和国、フィリピン共和国、シンガポール共和国、タイ王国、ベトナム社会主義共和国及び日本

構成

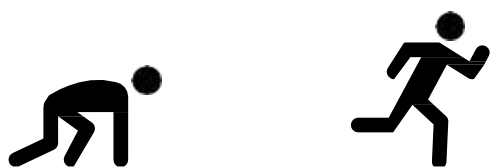
管理官1名、副管理官1名、主任1名、管理部員約30名、ファシリテーター9名
ナショナル・リーダー11名、日本参加青年39名、海外青年280名

航路及び訪問国

事前研修※日本参加青年のみ	8月4日 - 8月9日
出航前研修※日本参加青年のみ	10月21日 - 10月24日
海外青年来日	10月24日
参集式、歓迎レセプション	10月25日
日本国内活動	10月26日 - 11月2日
出航	11月3日
ベトナム（ホーチミン市）	11月10日 - 11月13日
シンガポール	11月16日 - 11月19日
ミャンマー（ヤンゴン）	11月22日 - 11月25日
マレーシア（ポートクラン）	11月29日 - 12月2日
帰港	12月12日
海外青年帰国	12月13日
帰国後研修※日本参加青年のみ	12月13日 - 12月14日



参加青年が事業中
感じたFutureに
つながる心の動きを
各ページで紹介します。



日本国内活動



参集式で事業の幕が開き、日本・ASEAN加盟国の全参加青年が初めて顔を合わせます。地方プログラム、東京プログラムの始まりです。

地方プログラム ～日本を多角的に知る～

日本とASEAN加盟国10カ国の青年の混成グループであるソリダリティ・グループ(以下SG)に分かれ、11府県を訪問しました。表敬訪問や地元青年との交流、地方の特色を生かした文化体験、施設訪問、ホームステイを行いました。



平和記念公園@長崎



成田国際空港視察@千葉



現地大学生とディスカッション@熊本



ホストファミリーと吉野ヶ里遺跡@佐賀



現地小学生と交流@新潟



歓迎会でのパフォーマンス披露@岩手



りんご狩り体験@青森



海ほたる視察@神奈川



コミュタン福島視察@福島



プレスレット作り体験@長野



大阪府庁表敬訪問@大阪



福島県でのホームステイを通じて、福島の方々の郷土愛や復興に対する強い想いを感じることができ、この経験から得た知識と福島の良さをより多くの人に伝えたいと思いました。

#藤長勇人 #福島 #復興

東京プログラム ～日本参加青年としての自覚・仲間との出会い～

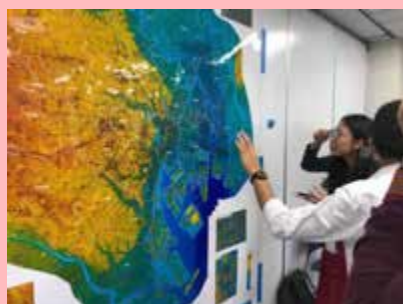
参集式に始まり、ディスカッショングループ(以下DG)ごとに課題別視察や表敬訪問、ディスカッション導入プログラム、事後活動セッションが行われます。文化交流プログラムは自分たちでブースの企画・運営をし、これから生活を共にする参加青年たちと文化を通じて交流することで、お互いを知るきっかけになりました。



参集式で整列する参加青年たち



内閣総理大臣表敬訪問



課題別視察で 地球温暖化の影響と防災について学ぶ



事後活動に向けてアイデアを出し合う



文化交流プログラムでけん玉にチャレンジ

日程	プログラム
10/25	参集式 歓迎レセプション
10/26～10/29	地方プログラム
10/30	課題別視察
10/31	内閣総理大臣表敬訪問（代表者） 事後活動セッションⅠ ディスカッション導入プログラム 文化交流プログラム
11/1	秋篠宮眞子内親王殿下・秋篠宮佳子内親王殿下御引見（代表者） 事後活動セッションⅡ
11/2	船へ移動
11/3	オープンシップ 出航式

テーマ	視察先
DG1 防災と復興	三井不動産株式会社
DG2 多様性と社会的包摂	株式会社ボーダレス・ジャパン
DG3 教育	品川女子学院
DG4 雇用とディーセントワーク	株式会社ディーセントワーク
DG5 環境と持続可能性	国際航業株式会社
DG6 健康とウェルビーイング	認定特定非営利活動法人カタリバ b-lab (文京区青少年プラザ) 認定 NPO 法人 PIECES
DG7 情報とメディア	株式会社博報堂
DG8 ソフト・パワーと青年の外交	一般社団法人グローバル教育推進 プロジェクト(GiFT)
DG9 青年の起業	株式会社 LORANS. 株式会社 BOUNDLESS

文化交流プログラムでは日本文化を発表 する展示を作りました。参加青年たちと自国の文化を共有し合うなかで、彼らが自国の文化に誇りを持っていることに気づきました。自分も日本文化をより深く学び、発信していきます。

#吉田翔平 #日本文化 #愛国心

